

道徳の授業を 楽しくする ために

広教ニュースレター

Vol.8



広教 2011. 1

<http://www.hirokyou.co.jp>

道徳の授業は難しい、資料をどう読んだらいいのかわからないといった声をよく耳にします。
今回は、日本道徳教育学会近畿支部支部長 行本美千子 先生に、深く楽しい道徳の授業を行うための資料の読み方についてお話を伺いました。
行本先生は、神戸市立高倉中学校校長を経て、兵庫県中学校道徳教育研究会顧問などを歴任されています。



日本道徳教育学会
近畿支部 支部長
行本美千子 先生

考える道徳なら楽しい

子どもたちの発言が少ない。乗ってこない。気がつけば文章の読解をしているような授業になっている。どうしたら子どもたちの心にストンと落ちる道徳の授業ができるのだろうか。そんな悩みが尽きないのが道徳の授業です。

道徳の授業が楽しいと言う子どもたちは、友だちの考えが聞けるのがいい、自分の考えを発表できるのがいい、また、これまで考えたことのないことを深く考えるのが面白いと言います。逆につまらないのは、分かりきったことを問われたとき、と答えます。わかりきったことでない、考えなくてはならない問いを子どもたちは望んでいるようです。

道徳の授業では主として読み物資料を使います。その資料を読みながら、すぐにここは問えると考えていませんか。資料には登場人物の心理が書かれていますから、つい、このときどんな気持ちだったかと発問したくなります。しかし、その読み方で子どもたちが本当に考える授業を組み立てられるでしょうか。

道徳上の問題の展開を 構図化する

「資料を読む」とは何を読むのでしょうか。大抵はストーリーや登場人物の心理を読みま

すが、必要なのは「道徳上の問題」を読み取ることです。もっと大切なのは、人間を読むことです。それには、道徳上の問題の展開を「起承転結」ととらえます。

起：道徳上の問題の起こり

承：自分の起こしたことに悩み、葛藤する

↓ 助言（道徳的に変化するきっかけとなる人や出来事）

転：助言に出会って主人公が道徳的に変化する

結：道徳的な結末

では、読み物資料『まどガラスとさかな』を読んでみます。

道徳上の問題の起こりは、千一郎が、キャッチボールをしていてよその家のまどガラスを割って、逃げたことです。これが「起」です。

次の朝、遠回りしてその家の前を通ると、まどガラスはぼかんと穴があいていて、千一郎ははつとして目をそらします。次の日も気になって見に行くと、ガラスを割ったのは誰だと言ひ紙がはつとあり、ぼくですと口の中で叫びながら、あわてて駆け出します。この場面は、自分の起こしたことが気になっているのですから「承」です。

その日の夕方、猫が魚をさらっていき、夕食後に猫の飼い主である近所のお姉さんがたずねてきて、あじの干物をお詫びにおいでいきます。このお姉さんの行為が「助言」です。千一郎は、あじの干物の大きな目に見つめられたような気がしてはつとします。次の日朝起きると真つ先に、よその家のまどガラスを割ったことをお母さんに話します。ここは「転」ですが、よくよく読むと、千一郎ははつとしても、お母さんに言っていないので、まだ道徳的に変化していると言えません。翌朝真つ先に言ったのだから、夜の間に変化したと考えられるのです。

そしてお母さんといっしょにお詫びに行きます。ここが「結」です。

資料によっては「起」が複数あるものもあるし、「承」がないものもあります。

授業に「山」をつくる

教科であれ、道徳であれ授業には「山」が必要で、「山」とは考えるところ、分かつていることを問われたときは考えなくても答えられますから、「山」にはなりません。分らないことを問われるとそこで行き詰りますが、分かううとして考え、分かつたとき面白いのです。楽しいのです。

「山」は資料の中に描かれている場合もありますが、そうでないときその「山」をつくるのが中心発問です。資料の中心場面、すなわち主人公が道徳的に変化をしたところ、あるいは道徳的な結末のところ、主人公の「心」を問います。『まどガラスとさかな』では、「千一郎はどんな風に考えて本当のことを言う決心をしたのか」と発問します。どう考えたかは資料には書いてありませんから子どもたちは自由に考えることができます。

「お姉さんは飼い猫のことなのに一軒一軒探してのお詫びにきた。僕は割った家がわかつているのだからちゃんとあやまらなくては」
「今だったらお母さんは怒らないかしれない」
「黙っている苦しい状況から抜け出したい」など色々な答えがでます。

吟味された発問は、子どもを考えさせ、気づかせ、自覚に導きます。そして楽しい道徳の授業をつくるのです。



※『まどガラスとさかな』
文部省 道徳の指導資料 第3集（第3学年）



道徳用読み物

「想いとどけて」より

指導案

の作り方を紹介



道徳の授業では、授業者がしっかりと資料（読み物）を読み込んで、本時のねらいを明確にし、ねらいに迫る中心発問を設定して、授業を組み立てることが大切です。そこで、京都府京丹波町立松山小学校の中舎良希先生から、道徳用読み物教材「想いとどけて」の中から「父の手紙」の指導案（5～6年生）と、指導案作成のポイントを紹介していただきました。

主題名：家族愛 4ー（5）

EC-03

父の手紙

小5～6年

心のノート P96-97

ねらい

父の手紙を読んで道徳的に変化する主人公（直人）を通して、父母を敬愛し家族の幸せを求めて、進んで役に立とうとする道徳的心情を豊かにする。

情報モラル
との関連

情報手段 時と場所、伝えたい内容によって、たくさんある情報手段の中から、適切なものを選択利用することにより、生活を豊かにすることができることを理解する。

◆主題名

簡潔に体言で表す。併せて内容項目を書く。

◆ねらいの書き方

- (A) …… 主人公を通して、
(B) …… しようとする
(C) …… を育てる。
養う。
培う。
高める。
豊かにする。 など

ポイント

- (A) 資料の活用を簡潔に表記する。
(B) 内容項目から適切に引き出す。
(C) 道徳性の要素（道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲）を入れる。

◆発問の設定の仕方

基本的には、起承転結の場面に発問を設定する。
(国語の起承転結ではない)

- 起 …… 道徳上の問題の起こり
承 …… 主人公が悩み、葛藤する場面
→ 助言
転 …… 助言により、主人公が道徳的に変化
結 …… 道徳的な結末

ポイント 基本発問

子どもたちの考えを深めさせ、中心発問につながる問いにする。

ポイント 中心発問（二重線で囲む）

本時のねらいに迫るものを設定する。
主人公が選択した行為（思考）のもとになった
内面的問題を問う。また、子どもたちの反応が
限定されないような問いを設定する。

※授業者が道徳上の問題をしっかりと捉えておく
ことが必要。

◆指導上の留意点の書き方

子どもたちが考えやすいように、話がそれないように、ねらいに迫りやすいように授業者の視点
で留意点を書いておく。

- ※○○○をおさえておく
○○○を説明する
○○○に共感させる
○○○を深めさせる
○○○の時には、切り返していく

指導助言

関西学院大学 教職教育研究センター 教授
日本道徳教育学会 会長
横山弘弘 先生

学習活動／主な発問と予想される児童の反応

指導上の留意点

- 資料「父の手紙」を視聴または範読する。
- 登場人物を把握する。

お話の長さ：5分50秒

どんな家族ができましたか。

- ・直人（ぼく）は野球チームに入っている
- ・お父さんは単身赴任で1カ月に1回しか帰ってこない
- ・お母さんがいる
- ・明という弟がいる

単身赴任の意味が分からない場合は、補足説明をする。
お父さんに会うのを楽しみにしていた主人公の心情を押さえる。

- 明の味方をする父にイライラする主人公の心情を理解する。



ぼくは、どんな気持ちで持っていたトランプを投げつけたのだろう。

- ・どうしてお父さんは、明の味方ばかりをするんだ
- ・お兄ちゃんだからって、がまんできない
- ・ぼくの気持ちも知らないで、頭にくるな！

反発する主人公に批判的に
ならないようにさせる。

- 父の言葉にがっかりし、反発する主人公の心情を理解する。



「相手だって、一生けんめい練習しているんだ。ゆだんしていると負けてしまうぞ。」という父の言葉を聞いたぼくは、どう思っただろう。

- ・応援してくれるんじゃないの？がっかりだ
- ・ぼくだって、一生けんめい練習しているんだ
- ・ぼくの練習のことも知らないくせに…

1カ月に1回しか会ってない
ことを想起させ、主人公の
心情を理解させる。

- 野球チームの仲間の誘いで遊びに行く主人公の気持ちに共感する。

少し迷いながらも、どう考えてぼくは行くことにしたのだろう。

- ・せっかくの仲間のさそいだから、遊びに行こう
- ・早く帰ってほしいだろう
- ・お父さんもいないし、まあいいか

- 父の手紙を読み、力がわき出てくる主人公の心情を考える。

■中心発問



父の手紙を読んだぼくは、どんなことを思っていただろう。

- ・ゲームなんてせずに、はやく帰ってくれば良かった
- ・お父さんに会いたかったな
- ・お父さん、ぼくの練習を見ていてくれたんだ
- ・今度の試合、お父さんのためにもがんばるぞ

反省ばかりになりがちなのは、
補足発問で主人公の
思いを深めさせる。
＜補助発問＞
力はどこからわき出たのだ
ろう。



情報モラル

時や場所、内容によって、適切な手段を選択して利用しましょう。



京都府京丹波町立松山小学校 中舎良希 先生

道徳の時間は、全ての子どもたちの考えを認められる素敵な時間です。指導案で、予想される児童（生徒）の考えを書いておくと、子どもたちの発言にうなずいたり、「そうか！」と驚いたりすることができます。大体は、予想される児童（生徒）の考えより、深い意見を言ってくれたり、教師が考えもつかなかったことを教えてくれたりするので、子どもは小さな哲学者です。よい資料（読み物）を活用して、子どもたちと道徳の時間を楽しんで下さい！

広教ニュースレター

は、情報モラルや情報教育に関する
ニュースや授業実践、また最前線でご活躍されている先生
方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社

〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号

TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082

URL <http://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp



広教
HIROKYO 広島県教科用図書販売株式会社